

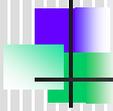
## SOAガイド

2006年12月11日

SOA部会  
SOAガイドWG  
(株)JIEC 坂下 秀彦

## メンバー一覧

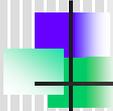
- メンバー(五十音順)
  - 倉沢 良明 キヤノン(株)
  - 坂下 秀彦 (株)JIEC
  - 鈴木 豊彦 日本システムウェア(株)
  - 田村真一郎 沖電気工業(株)
  - 中村 知義 (株)ジャステック
  - 根本 和郎 日本アイ・ピー・エム(株)
  - 萩原 康至 (株)JIEC
  - 星川 恭子 沖電気工業(株)
  - 森本 信次 日本オラクル(株)
  - 横田 治樹 NECソフト(株)



## 本日の内容



- 活動の中間報告
  - 今期我々が何をしようとしているのか、そして現時点でどこまで出来ているのか、をご紹介します。

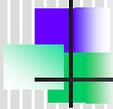


## SOAガイド



- 当タスクチームの目指すところ
  - 目的: SOAに対する共通認識の確立
    - ユーザー、ベンダー毎にSOAの捉え方はまだまだまちまちです。微妙に異なる認識の差異をなくすることができないか。我々でそこにある一定の尺度を設定しようというのが、今期の研究テーマです。
  - 目標: その為のガイドの作成

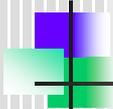




## 本ガイドの対象者は？



- システム構築に関わるユーザー、ベンダー、SIer全てのステークホルダーを対象とする
  - ベンダーは、製品を売る人、開発する人の両方



## ガイド作成の流れ



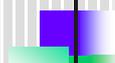
- ユーザーのSOAの捉え方の調査
- ベンダーのSOAの捉え方の調査
- 以上の整理、統合、集約
- 我々の設定した尺度(着目した点)でまとめる

## 現在の進捗



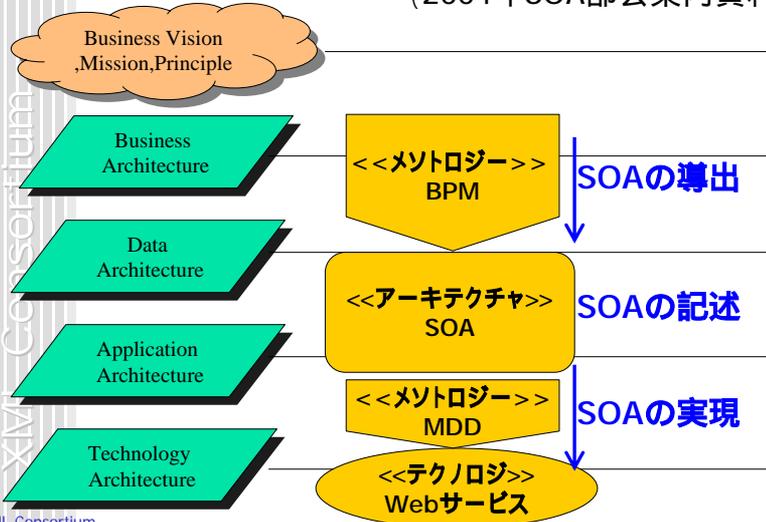
- ユーザーのSOAの捉え方の調査
  - EAで言うところのSOAとは・・・、実は言っていないらしい
  - 先進企業では「定義」から「実装」の段階へ
    - 従業員数2000人以上の企業では10%の企業が適用済み、または1年以内に適用予定。内容を理解している：35%以上。(出典：Gartner, 2006)
- ベンダーのSOAの捉え方の調査
  - SOA成熟度モデル
  - SOA構築ステップ、構築ロードマップ、リファレンス・アーキテクチャ等
- 以上の整理、統合、集約
  - 言っていることは微妙に違って、最低限合意している部分はあるはず
  - または、違って部分に着目して議論しても面白いかも
- 我々の設定した尺度(着目した点)でまとめる

## 当部会でのSOAの定義



- システムを、業務視点の機能(サービス)の集合と捉え、ビジネス環境の変化に対して、迅速にサービスを組み換えることで柔軟に対応するシステム構築方針
  - アプリケーションをラップしてサービスにする
  - 外からはサービスのインタフェースのみを意識する
  - サービス自体の実装には依らない
  - インフォメーションパス(ネットワーク)にサービスをプラグインして統合を実現する
- (2004年SOA部会案内資料より)

(2004年SOA部会案内資料より)



## 例えば、IBM SOMAでは

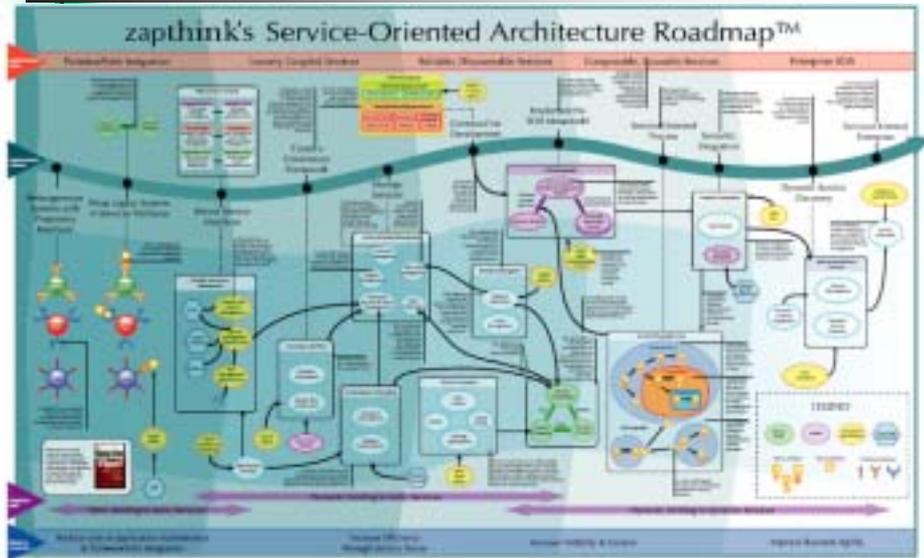
- IBM はSOA を以下の3つの文脈で定義している
  - 1. **ビジネス** - SOA はビジネスを顧客やパートナー、あるいは組織の他の部署に公開する一連のサービスである。
  - 2. **アーキテクチャ** - SOA はサービスプロバイダ、リクエスタ、サービス記述を必要とするアーキテクチャスタイルである。さらに、モジュール性、カプセル化、疎結合、関心事の分離、再利用、構成可能性、単一実装のような特性を扱う、一連のアーキテクチャ原則、パターン、基準でもある。
  - 3. **実装** - SOA はWeb サービスのような標準、ツール、技術を備えたプログラミングモデルである。

SOMA: Service Oriented Modeling Architecture

出典:「参照アーキテクチャ調査報告(2005年度)」ITスキル標準プロフェッショナルコミュニティ ITアーキテクト委員会



## zaphink's SOA Roadmap



© XML Consortium

< 配布資料にはございません >

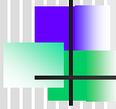
13

## SOA Implementation Phase



- Point-to-Point Integration
- Loosely coupled Services
- Reliable, Discoverable Services
- Composable, Reusable Services
- Enterprise SOA

zaphink's SOA Roadmapより

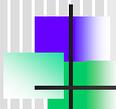


# SOAガイドの方向性



XML Consortium

- 考察
  - アーキテクチャという言葉がついていることから分かるように、ベンダーからは構築の指針といった説明が多い。
    - そこから、だから弊社の製品でSOAを構築しましょう・・・に陥りがち。
  - SOAでは「ビジネスとITが密接に連携」している為、ユーザーはIT側に難しさを感じ、技術屋はビジネス側に分からなさを感じる。そこが、SOAってよくわからない・・・を生んでいるのでは。
  - 違う言葉を使っているが、よくよく見ると同じことを言っていたりする。
  - 時として、SOA = 新しいシステムを作ることが目的になってしまう場合も。
- そもそも、「SOAの目的はビジネスとITの融合」ということを考慮すると、ビジネス・アーキテクチャ・実装という多面的な視点からの分析が必要(重要)ではないか。
  - そしてSOAを語る時は、どの視点で述べるのかをまず宣言しよう



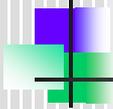
# 以上をこんな形に整理中！ (まだまだ試行錯誤しています)



レベル	CMMI	SOA成熟度モデルのレベル	ビジネス(重要なビジネス効果)	アーキテクチャ	実装	
					選択された標準	
5	最適化段階	ビジネスサービスの最適化	ビジネスの最適化 自動的に反応、応答			
4	定量的管理段階	ビジネスサービスの測定	受動的ビジネスからリアルタイムビジネスへの転換、ビジネスパフォーマンスの達成			
3	定義段階	コラボレーティブサービス	ビジネスの応答性 ビジネスパートナー、取引パートナーとのコラボレーション			RosettaNet, ebXML, WS-Trust
		ビジネスサービス	ビジネスの応答性 迅速かつ効果的なビジネスプロセスの変更			WS-BPEL
2	管理段階	サービスの設計	費用対効果(ITコストの削減と制御)	サービスレジストリ		UDDI, WS-ReliableMessaging, WS-Policy, WS-Addressing, XQuery, WS-Security, SAML
1	実践段階	サービス初期	新しい機能	業界標準, ESB	レガシーシステム統合	XML, XSLT, WSDL, SOAP, Java, .NET

「新しいサービス指向アーキテクチャ(SOA)成熟度モデル」(Sonic Software)より引用・再整理

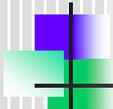
XML Consortium



## まとめ



- XMLコンソーシアムWeekをターゲットに、「SOAガイド」鋭意製作中
- どんなものができるか、一抹の不安も…。
- ぜひ、ご一緒に。参加者募集中！



## 資料



- 新しいサービス指向アーキテクチャ(SOA)成熟度モデル, Sonic Software
- zaphink's Service-Oriented Architecture Roadmap, ZapThink
- OASIS Reference Model for SOA V1.0, OASIS
- 「SOA実践ガイドブック」, Norbert Bieberstein他著, 2006, 翔泳社
- 「参照アーキテクチャ調査報告(2005年度)」, ITスキル標準プロフェッショナルコミュニティ ITアーキテクト委員会, 2006, IPA
- 「SOAリファレンス・アーキテクチャ」, webMethods, 2006